

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋建築環境性能評価マニュアル2016 | 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	名古屋市国際展示場コンベンション施設	階数	地上5F
建設地	名古屋市港区金城ふ頭二丁目7番1	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	950 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,920 時間/年(想定値)
建物用途	飲食店,集会所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年7月 予定	評価の実施日	2021年6月11日
敷地面積	4,743 m ²	作成者	
建築面積	3,903 m ²	確認日	2021年6月14日
延床面積	9,806 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

= BE3.1 ★★★★★★

★:S:★★★★★ A:★★★★★ B+:★★★★ B:★★★ C

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆ 100%超 ☆☆☆ 100% ☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 60% :30%

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	68%
③上記+②以外の	68%
④上記+	68%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.7

音環境	3.9
温熱環境	3.2
光・視環境	3.6
空気質環境	4.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.9

機能性	4.1
耐用性	3.4
対応性	4.0

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.9

生物環境	3.0
まちなみ	5.0
地域性・	3.5

LR 環境負荷低減性

LRのスコア = 4.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.7

建物外皮の	5.0
自然エネ	4.0
設備システ	5.0
効率的	4.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.8

水資源	3.4
非再生材料の	4.2
汚染物質	3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

地球温暖化	4.2
地域環境	3.1
周辺環境	3.2

3 設計上の配慮事項		その他
総合 国際展示場エリアの中心に位置する施設として、地域特性に配慮したデザイン・建材の採用や、建物利用形態をふまえた省エネ技術の導入によって、環境配慮型のコンベンション施設としている		
Q1 室内環境 適切な吸音材料の配置・遮音性能の確保、居室において夏季26℃・冬季22℃を実現可能な設備容量の確保、トップライト、拡散ルーバー、開口部外装形状による屋内導光、セントラル換気設備のCO ₂ 制御、屋内全館禁煙などにより室内空間の快適な居住性を確保している	Q2 サービス性能 名古屋らしさを表現する建物コンセプト立案、ゆとりある階高・天井高さによる広さ感の確保、各所塩害耐性とメンテナンス性に優れた建材、表面強度・耐摩耗性の高い床材の選定、BCP機能確保、高い耐震性能により高水準のサービス性能としている	Q3 室外環境(敷地内) 景観自立地区の方針を反映したダイナミックな外装・内装デザインとし、大規模ピロティ、デッキ通路により温熱環境に配慮した良好な歩行者空間を確保し、国際展示場エリアの地域性に配慮している
LR1 エネルギー 高い外皮性能による熱負荷の抑制、高効率設備の採用による環境に配慮した設備計画、ロビー トップライトによる自然採光・自然換気の実現、中央監視設備によるエネルギー消費量の把握が可能な計画としている。	LR2 資源・マテリアル 節水型器具の選定、木質系セメント板、基礎の高炉セメント利用、木部への環境配慮塗装、躯体-仕上下地-仕上材の分離施工などにより、資源保護・再利用に配慮している	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率の抑制、膜処理による高度な汚水処理、適切な駐車スペース・駐輪スペースの計画による周辺環境への負荷抑制を行い、専門家の参画により地域に配慮した照明計画を行っている

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

名古屋市国際展示場コンベンション施設

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				4.5
LR1	エネルギー	4.7	0.4	/
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.2	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				2.9
Q3.1	生物環境の保全と創出	3.0	0.090080311	/
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009008031	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045040155	
3. 循環型社会				4.0
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	/
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	4.2	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.3	0.01875	

結果

1. 温暖化対策	評価点 = 4.5	
2. 自然共生	評価点 = 2.9	
3. 循環型社会	評価点 = 4.0	

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。